

MITSUBISHI

三菱デジタルレコーダー増設ユニット

形名

DX-ZD6

取扱説明書



三菱デジタルレコーダー増設ユニット

HARD DISK UNIT

このたびは三菱デジタルレコーダー増設ユニットをお買い上げいただきありがとうございました。

- ・ ご使用になる前に、正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保存し、必要なときにお読みください。
- ・ 保証書は必ず「お買い上げ日」「販売店名」などの記入をお確かめの上、販売店からお受け取りください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。記録したデータを個人的に楽しむほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

デジタルレコーダー増設ユニットを正しく安全にご使用いただくために、ご使用になる前に必ず3～7ページをお読みください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

本機的主要な特長／もくじ

本機的主要な特長

大容量ハードディスクドライブ (HDD) 増設ユニット

高信頼性・高速動作の大容量の HDD を搭載しています。

HDD 運用モード

セパレート*、スパニング、ミラーリングの 3 つの HDD 運用モードから希望のモードを選択することができます。

*：セパレートモードは、接続しているレコーダーが DX-TL6000 シリーズの場合のみ使用することができます。

電源連動機能

三菱デジタルレコーダーの電源と連動して本機の電源を入／切させることができます。

ワーニング機能

異常な温度上昇や HDD のエラーを外部へ知らせるための端子を備えています。

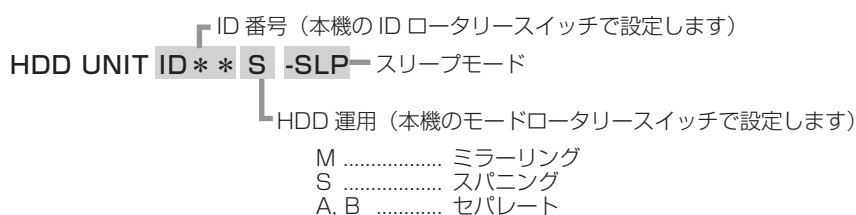
スリープ機能

本機の HDD にデジタルレコーダーからのアクセスが 30 分以上ない場合に、HDD の回転を自動で止めることができます。この機能は、接続しているレコーダーが DX-TL6000 シリーズの場合のみ使用することができます。

パソコンとのダイレクト接続

本機をパーソナルコンピューターに USB ケーブルで直接接続し、専用の再生ソフトウェアを使用して本機に記録されたデータをパーソナルコンピューターで再生することができます。専用の再生ソフトウェアにつきましては、販売店にご確認ください。

パーソナルコンピューターに表示される本機の名称は、以下のようになります。



もくじ

安全のために必ずお守りください	3	「故障かな」と思う前に	15
各部のなまえとはたらき	8	HDD インジケーターによる診断	16
本体前面部	8	メンテナンス	16
本体後面部	9	仕様	17
接続する	10	アフターサービス	裏表紙
接続可能なレコーダー	10		
接続例	10		
レコーダーと本機の電源を連動させるための接続	10		
接続時のご注意	11		
本機を起動する	11		
HDD 運用モード／スリープ機能の設定をする	12		
HDD 運用モードについて	12		
スリープ機能について	12		
設定のしかた	12		
本機の ID 番号を設定する	14		

◆ この取扱説明書の読みかた

マークの見かた

(操作上、参考にしてください)

操作上、参考にさせていただきたい情報を記載しています。

(お気をつけください)

操作上、気をつけていただきたい情報を記載しています。

(参照ページをごらんください)

参照項目とページ数を記載しています。

ご注意ください








この製品はクラス A 情報技術装置です。住宅環境で使用する場合は、電波障害を発生させる恐れがあります。その際、この製品の利用者は、適切な手段を講ずることが必要とされることがあります。

安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの
---	---	---	-------------------------------------

■ 図記号の意味は次のとおりです。

 絶対に行わないでください	 絶対に分解・修理はしないでください	 絶対に触れないでください
 絶対に水にぬらさないでください	 絶対にぬれた手で触れないでください	
 必ず指示に従い、行ってください	 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください	

警告

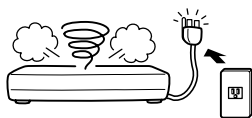
万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く!!

異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。



プラグを抜く

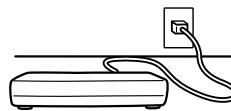
煙が出ている、変なにおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く!!



使用禁止

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。

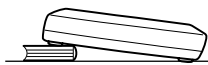
電源プラグを、コンセントからすぐに抜くことができる場所に設置する



電源プラグがすぐ抜ける場所

異常発生時、電源プラグをコンセントからすぐに抜くことができないと、火災の原因となります。

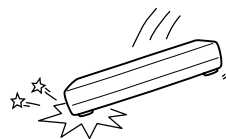
不安定な場所には置かない



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

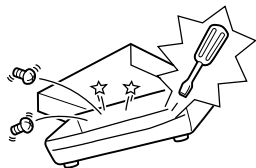
落としたり、キャビネットを破損した場合は使わない



使用禁止

火災や感電の原因となります。

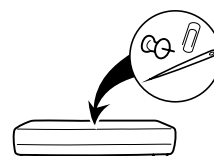
キャビネット（天板）をはずしたり、改造しない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因となります。また、改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

内部に異物を入れない



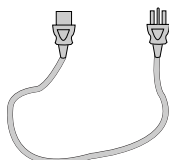
禁止

通風口や排気口から金属類や燃えやすいものなどが入ると、火災や感電の原因となります。

安全のために必ずお守りください (つづき)

警告

付属の電源コードを使用する

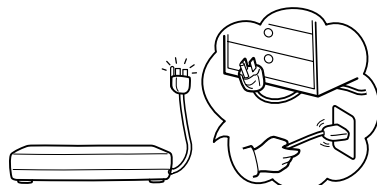


付属の電源コード

これ以外の電源コードを使うと、外部からの耐ノイズ入力性能が低下したり、火災の原因となります。アース端子は安全のための接地アースです。コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください (有料)。電源プラグのアース端子をガス管・水道管・避雷針などへ絶対に取り付けないでください。

電源コードを傷つけない

- 重いものをのせない
- 無理に曲げない
- 束ねない
- 引っ張らない
- 加熱しない



禁止

コードに傷がつくと、火災や感電、故障の原因となります。電源コードの芯線が露出したり断線するなど、コードが傷んだときは、すぐに販売店に修理をご依頼ください。

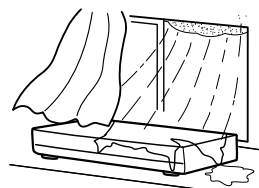
花瓶やコップ、植木鉢、小さな金属物などを上に置かない



水ぬれ禁止

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。

水でぬらさない

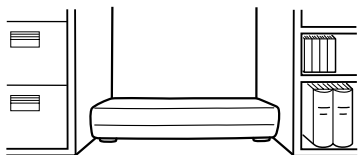


水ぬれ禁止

火災や感電の原因となります。雨天、降雪中、水辺、窓辺での使用は、特にご注意ください。

通風口、排気口をふさがない

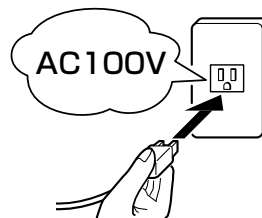
- 風通しの悪い狭い場所に置かない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- テーブルクロスなどをかけない



禁止

通風口、排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

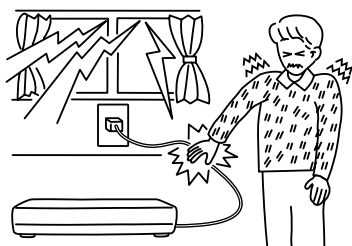
正しい電源電圧 (交流 100V) で使う、また配線器具の定格電流をこえない



交流 100V

交流 100V 以外の電圧で使用した場合や配線器具の定格電流をこえて使用すると、火災や感電の原因となります。また、たこ足配線はしないでください。

雷が鳴り出したら本体および電源プラグには触れない



接触禁止

感電の原因となります。

まわりに 15cm 以上すきまをあける (特に後面)



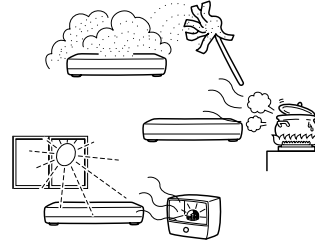
すきまをあける

内部に熱がこもり、火災の原因となります。放熱をよくするために、他の機器から離して設置してください。

⚠ 注意

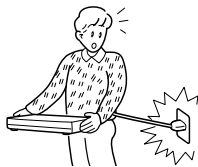
設置時は、次のような場所には置かない

- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湯気が当たる場所
- 直射日光の当たる場所
- 熱器具の近く
- 閉めきった自動車内など、高温になるところ
- 製氷倉庫など、低温になるところ
- 自動車内など、振動が多いところ
- 温泉地など、硫化水素などのガスが発生するところ
- 海岸近くなど、塩分の多いところ



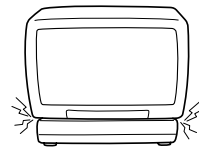
このような場所に置くと、ショートや発熱、電源コードの被膜が溶ける、記録ドライブ等の劣化を早めるなどにより、火災や感電、故障、変形の原因となることがあります。

接続したまま本機を移動させない



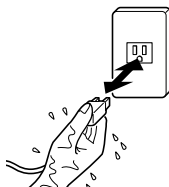
電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源が入った状態で移動させると内蔵 HDD を破損させる恐れがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認し、1 分以上たったあとで移動させてください。

本機の上に重いものを置かない
本機の上へのらない



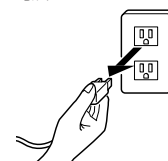
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



感電の原因となることがあります。

電源プラグを持って抜く



電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの具合を点検する



ほこりなどがついたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。1 年に 1 回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。

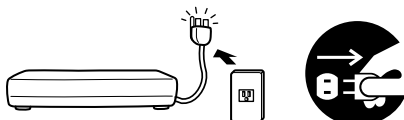
5 年に一度は内部の掃除を依頼する



内部にほこりがたまったら長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うのが効果的です。

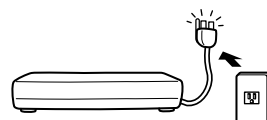
内部掃除費用については、販売店にご相談ください。

長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておく



定期的 (1 週間に 1 回程度) に電源を入れ、動作を確認してください。

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う

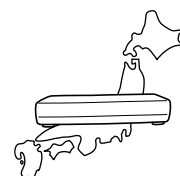


感電の原因となることがあります。

本機は日本国内専用です

電源電圧の異なる海外では使用できません。また、海外でのアフターサービスもできません。

This hard disk unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.



安全のために必ずお守りください（つづき）

使用上のお願い

ハードディスク（HDD）について

- ・ 本機は、精密機器である HDD を搭載しております。本機の取扱いには、十分ご注意ください。
- ・ 本機に振動や衝撃を与えないでください。特に通電中や HDD へのアクセス中に振動や衝撃を与えると、故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- ・ 記録・再生の動作中または通電中に、電源プラグおよび USB ケーブルを抜かないでください。
- ・ 故障の早期発見のため、1 年ごとに点検を依頼されることをおすすめします。
- ・ 本体の電源を切ってから少なくとも 1 分間は移動させないでください。
- ・ 記録動作中にコンセントを抜いたりプレーカーを切ったりすると、HDD が故障したり、記録したデータが再生できなくなる恐れがあります。プレーカーを毎日入/切される場合は、タイマー記録をプレーカーが入っている時間帯に動作するように設定し、記録動作中にプレーカーを切らないようにしてください。
- ・ 記録した内容が正常に再生できることを定期的に確認されることをおすすめします。
- ・ HDD の交換については、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。

付属の電源コードについて

- ・ 付属の電源コードは、本製品専用です。決して他の製品には使用しないでください。

設置場所と取扱い

- ・ 消費電力の大きな機器（コピー機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。
- ・ 他の機器とあまり近づけないでください。機器がお互いに悪影響を与えて、映像や音声が乱れる可能性があります。
- ・ 強い磁気をもっているものを近づけないでください。映像に悪影響を与えたり、記録が損なわれることがあります。
- ・ 殺虫剤など揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- ・ HDD と冷却ファンは駆動部品です。安定した記録を継続するため、周囲温度 25℃でのご使用時に、3 万時間を目安に交換することをおすすめいたします。（ただし、この時間はあくまでも交換の目安であり、部品の寿命を保証するものではありません。）
- ・ 許容周囲温度（5～40℃）および許容周囲湿度（80%以下）を必ずお守りください。この温度範囲以外でのご使用は、内部の部品に悪影響を与えたり、誤動作の原因となることがあります。また、温度が高くなると、HDD の特性が劣化したり、寿命に影響を及ぼす場合があります。低温でのご使用になる場合は、10 分以上通電を行ったのち、ご使用ください。

設置場所の移動

- ・ 移動させるときは、必ず電源を切り電源プラグをコンセントから抜いてください。通電中に過度な衝撃を与えると、機器内部の電子部品や HDD をいためることがあります。特に、アクセスインジケータの点滅中や点灯中は、ご注意ください。
- ・ 移動させるときは、内部に衝撃を与えないように緩衝材などで包んでください。

お手入れ

- ・ キャビネットの汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- ・ 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたしたあとよくしぼった布で汚れをふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- ・ 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ・ ベンジンやシンナーなどの溶剤は使わないでください。変質したり、塗料がはげたりするなどの原因となります。

大切な記録の場合

- ・ 必ず運用前に記録確認を行い、運用中も設定どおり正常に記録されていることを定期的に確認してください。
- ・ 本機を使用中、本機もしくは接続機器等の不具合により記録されなかったり正常に再生できなくなったりした場合、その内容の補償についてはご容赦ください。
- ・ 万一の故障や事故に備えて、大切な記録の場合はバックアップをとられることをおすすめします。

著作権について

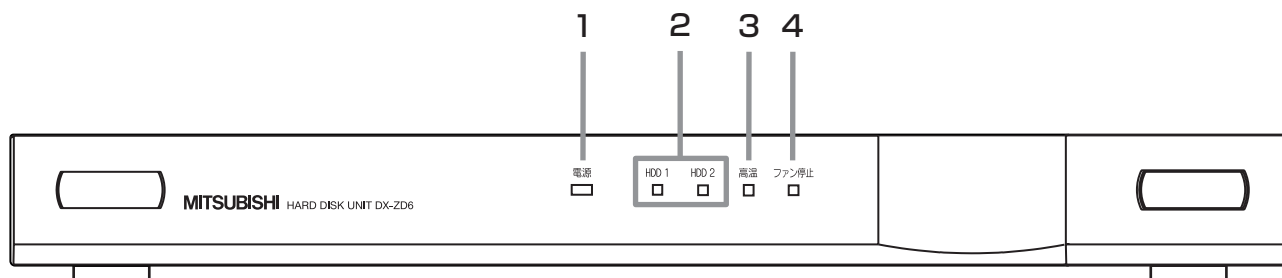
- ・ 本機はデジタル方式で記録を行うため、著作権を有する映像などを記録するにはご注意ください。

免責について

- ・ 弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - ① お客様ならびに工事業者様により本製品の分解、修理または改造が行われた場合
 - ② お客様ならびに工事業者様の誤使用や不注意により生じた本製品の故障、破損あるいは損害
 - ③ 本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により生じた、映像が表示・記録等できないことまたは本機がもつ機能が正常に動作しないことによる不便・損害・被害
 - ④ 第三者が製造した機器等との組み合わせによる不具合、あるいはその結果により被る不便・損害・被害
 - ⑤ 内蔵のHDDをお客様自身ならびに工事業者様が交換した場合の、本製品の故障ならびに映像データの消滅による不便・損害・被害ならびにクレーム等
 - ⑥ 地震・台風等を含む自然災害による本製品の故障ならびに映像が表示・記録等できないことによる不便・損害・被害
 - ⑦ 内蔵のHDDの振動や衝撃、または温度など設置場所の環境に起因する故障ならびに映像データの消滅による不便・損害・被害ならびにクレーム等
 - ⑧ お客様により監視もしくは記録された映像が、理由の如何を問わず公となりまたは監視目的外に使用されたことによる、プライバシー侵害等を理由とする賠償請求やクレーム等

各部のなまえとはたらき

本体前面部



1 電源インジケータ

後面部の電源連動スイッチ（EXTERNAL CONTROL スイッチ）が OFF に設定されているとき、または ON に設定されレコーダーの電源が ON のとき、MAIN スイッチを ON にすると、インジケータが点灯します。

2 HDD1、HDD2 インジケータ（アクセスインジケータ）

HDD1、HDD2 にアクセスしているときに、アクセス中の HDD のインジケータが一瞬緑色に点滅します。データの記録／コピー中は緑色に点滅します。エラーが発生した場合は、赤色に点滅または点灯します。（[P.16](#) ページ）

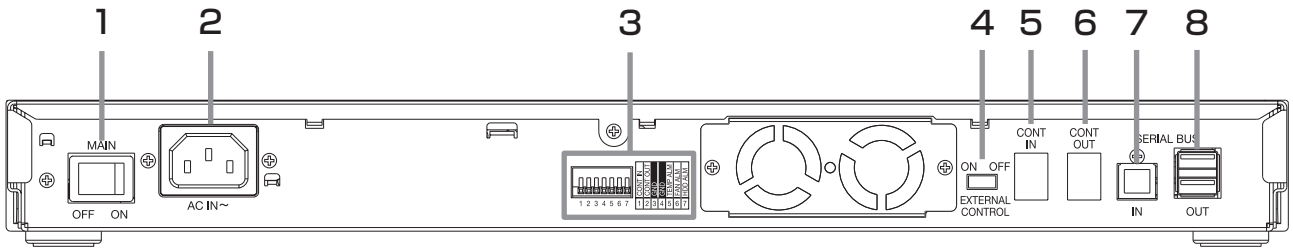
3 高温インジケータ

本機の内部が高温になったとき点灯します。

4 ファン停止インジケータ

本機のファンが停止したとき点灯します。

本体後面部



1 MAIN スイッチ

主電源スイッチです。本機を使用する場合は、ON にします。

2 電源コード差込口

付属の電源コードを差し込みます。アース端子は、安全のための接地アースです。本機の電源コードは、必ずアース付きの交流 100 V のコンセントに差し込んでください。

気を付けて.....

- コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください（有料）。電源プラグのアース端子を、ガス管・水道管・避雷針などへ絶対に取り付けないでください。
- 付属品の電源コードをご使用ください。
- 本機の電源は、必ず接続するレコーダーと同系統の電源からとってください。別の電源からとると、記録やコピーの停電復帰機能が正常に動作しなくなります。

3 I/O 端子

CONT IN 端子

レコーダーの電源ボタンの入/切の状態を本機に入力するための端子です。レコーダー後面の DC 12V OUT 端子と接続してください。

CONT OUT 端子

レコーダーの電源ボタンの入/切の状態を本機から出力するための端子です。本機を複数台連続して接続し、電源連動機能を使用する場合、次に接続される増設ユニット後面の CONT IN 端子と接続してください。

GND (GROUND) 端子

共用のグラウンド端子です。レコーダーの電源連動機能を使用する場合、レコーダー後面の GND 端子と接続してください。

TEMP ALM 端子

内部の温度が高温になった場合、外部に異常を知らせるための端子です。

FAN ALM 端子

ファンの異常を外部に知らせるための端子です。

HDD ALM 端子

HDD の異常を外部に知らせるための端子です。

4 EXTERNAL CONTROL スイッチ

レコーダーの電源ボタンの入/切に連動して、本機の電源を入/切させる場合、このスイッチを ON（左側）にしてください。それ以外の場合は、OFF（右側）にしてください。

気を付けて.....

- EXTERNAL CONTROL スイッチを ON に設定した場合は、必ず 10 ページの「レコーダーと本機の電源を連動させるための接続」を行ってください。レコーダーの電源を入ると、連動して本機の電源が入ります。
- 本機内部の HDD を休ませるため、また障害が発生した時にレコーダーが適切な処置を行えるようにするため、連動させて使用することをおすすめします。

5 CONT IN 端子

レコーダーを接続する端子です。本機との電源連動等に使用します。DX-TL6000 シリーズのレコーダー専用の端子です。

6 CONT OUT 端子

DX-ZD6 を複数台連続して接続する場合、次に接続する DX-ZD6 を接続するための端子です。本機との電源連動等に使用します。

7 SERIAL BUS IN 入力端子

レコーダーと本機を接続するための端子です。

8 SERIAL BUS OUT 出力端子

DX-ZD6 を複数台連続して接続する場合、次に接続する DX-ZD6 を接続するための端子です。

気を付けて.....

- 本端子から 5V DC 電源を供給することはできません。
- 本端子には DX-ZD6 以外は接続しないでください。

接続する

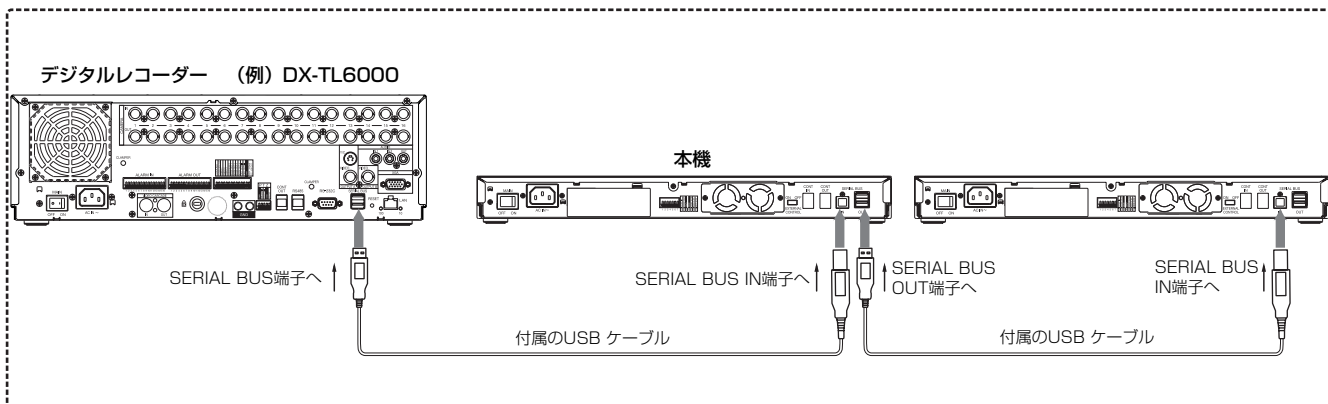
接続可能なレコーダー

- 三菱デジタルレコーダー DX-TL6000 シリーズ (DX-TL6000)
 DX-TL5000 シリーズ (DX-TL5000、DX-TL5500)
 DX-TL4500 シリーズ (DX-TL4500、DX-TL4300)

() 内の機種情報は、2007年10月時点のものです。記載以外の機種との接続については、販売店にご相談ください。

接続例

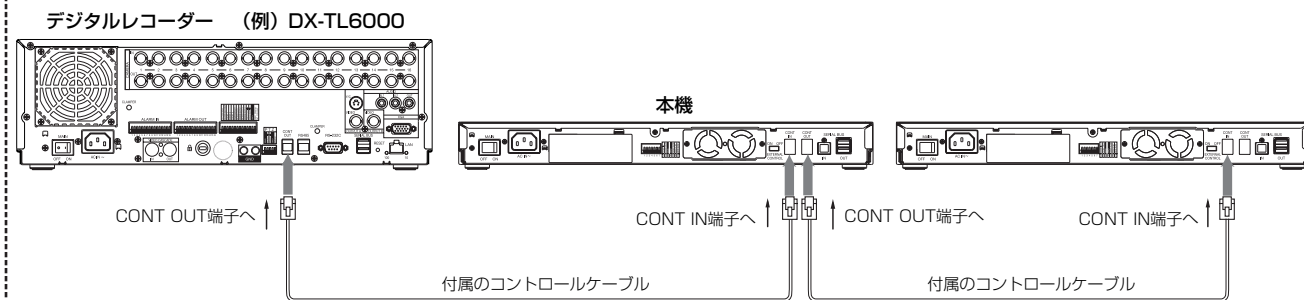
- ◆ 本機に付属している USB ケーブルを使って、本機とレコーダーを接続します。
- ◆ 以下の図のように、複数の DX-ZD6 を接続することができます。



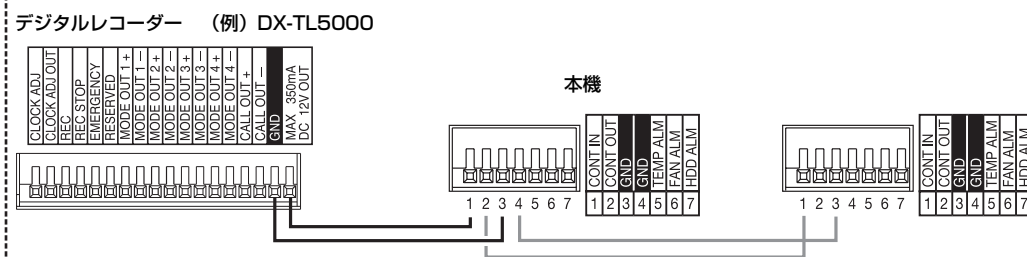
◆ レコーダーと本機の電源を連動させるための接続

- ◆ 本機後面の EXTERNAL CONTROL スイッチを ON (左側) にし、下図のように接続してください。本機とレコーダーの電源を連動させて使用することをおすすめします。
- ◆ 通常記録やタイマー記録で、記録やコピーの停電復帰動作をさせるためには、レコーダーと同系統の電源から本機の電源をとってください。

■ DX-TL6000シリーズの場合



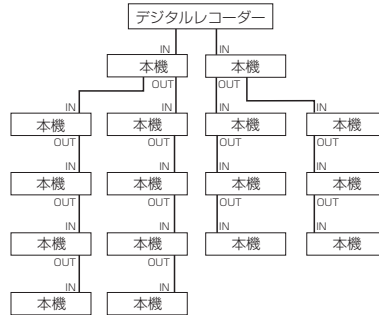
■ DX-TL5000シリーズ/DX-TL4500シリーズ 場合



◆ 接続時のご注意

気を付けて

- 増設ユニットを5台以上接続してご使用になる場合、HDDの起動時間のばらつきによる認識不良を防止するため、下図のように付属のUSBケーブルを接続することをおすすめします。また、運用開始時や停電から復帰した際には、接続台数が少ない場合でもHDDが正常に認識されていることを十分に確認してください。



※ シリアルバス端子を2個使用した場合

- 本機とレコーダーを連動させるための EXTERNAL CONTROL スイッチは、出荷時は ON に設定されていますが、この状態で電源コードを接続し、MAIN スイッチを ON にしても、本機は動作しません。P.10 ページの「レコーダーと本機の電源を連動させるための接続」のように、本機とレコーダーを接続してください。

ポイント

- 接続できる増設ユニットの台数は、接続するレコーダーによって異なります。レコーダーの仕様を確認してください。
- 増設ユニットのシリアルバスによる接続では、6台以上縦列に接続することはできません。
- 接続するレコーダーによってシリアルバスの端子数が異なります。安定した記録のため、できるだけレコーダーの端子を使用して、本機から分岐しないように接続することをおすすめします。

本機を起動する

手順 1 本機後面の MAIN スイッチを ON にする。

手順 2 レコーダー後面の電源 (MAIN スイッチ) を ON にする。

- レコーダーと本機の電源が連動していない場合は、本機の電源インジケータが点灯します。

手順 3 レコーダーの LCD に「POWER OFF」が表示されてから、レコーダー前面の電源ボタンを押す。

- 本機前面の HDD1 と HDD2 のインジケータが緑色に一瞬点滅します。
- レコーダーと本機の電源が連動している場合は、レコーダー前面の電源ボタンを押すと、本機の電源が入ります。
- レコーダーの電源が入ると、接続は完了です。

ポイント

- レコーダーの使用方法については、接続しているレコーダーの取扱説明書をごらんください。

HDD 運用モード／スリープ機能の設定をする

HDD 運用モードについて

本機には、以下の3通りのHDD運用モードがあります。工場出荷時は、HDD運用モードはミラーリングに設定されています。

■ セパレート運用

2台の内蔵HDDをそれぞれ独立して使用します。

気を付けて.....

- この運用は、接続しているレコーダーがDX-TL6000シリーズの場合のみ使用することができます。

■ スパニング運用

2台の内蔵HDDを見かけ上1台に結合し、1台のHDDとして使用します。容量は2台の合計の値となります。

気を付けて.....

- スパニング運用中に片方の内蔵HDDが故障した場合、両方のHDDが使用できなくなり、記録されていたデータは消去されます。

■ ミラーリング運用

2台の内蔵HDDに同じデータを同時に記録します。

HDDが1台故障した場合でも、故障したHDDを交換すると、新しく取り付けられたHDDにもう1台のHDDからデータが自動的にコピーされ、故障前の状態に復帰させることができます(データの同期化)。

データの同期化は、500GBで約8時間かかります。これは、他の動作をしていない状態での時間の目安であり、記録中や再生中は、これよりも長くなります。電源のOFFなどで同期化が途中で中止された場合は、再び電源が入ると続きから同期化を行います。

気を付けて.....

- ミラーリング運用で故障したHDDを交換する場合は、未使用のものを取り付けてください。使用中のHDDを取り付ける場合は、管理情報を消去してから取り付けてください。(※右「設定のしかた」)消去せずに取り付けられた場合、データの同期化に失敗することがあります。(元々ついていたHDDを取り付けたまま消去しないでください。データが消去されます。)

スリープ機能について

本機のHDDに30分以上レコーダーからのアクセスがない場合に、HDDの回転を自動的に停止させます。

気を付けて.....

- この機能は、接続しているレコーダーがDX-TL6000シリーズの場合のみ使用することができます。
- この機能は、レコーダーのスリープ機能設定が有効になっている場合のみ使用することができます。レコーダーのスリープ機能設定が無効に設定されている場合は、使用しないでください。

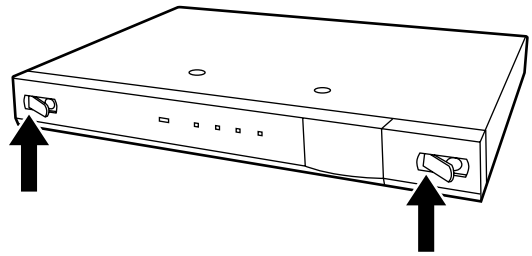
設定のしかた

手順1 本機後面のMAINスイッチをOFFにする。

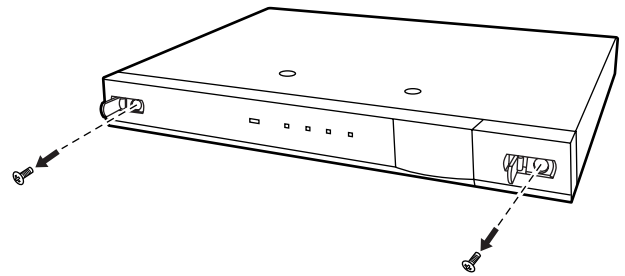
手順2 本機前面下部のカバーの両端にあるネジカバーの左端を押して、ネジカバーを開ける。

気を付けて.....

- 通常の使用時に、ネジカバーを開いたままにしないでください。

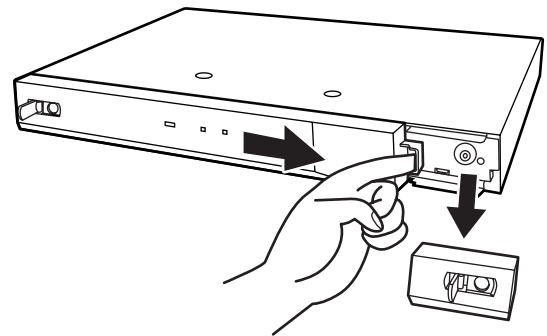


手順3 ネジをはずす。



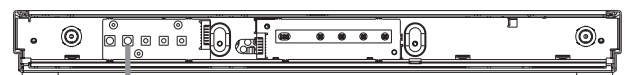
手順4 カバーをはずす。

- はじめに右側のカバーを取りはずします。
- 次に左側のカバーを右へスライドさせて取りはずします。



手順5 MODEロータリースイッチを7番に設定する。

<本機前面カバー内部>



MODEロータリースイッチ

- 本機の運用を変更する前に、手順5～7でHDDの管理情報を消去します。未使用のHDDを使用する場合は、消去は必要ありません。使用中のHDDを本機に取り付けて使用する場合は、管理情報の消去を行わないと、HDDを正常に使用できませんので、運用変更前に必ず消去を行ってください。(元々ついていたHDDを取り付けたまま消去しないでください。データが消去されます。)

手順 6 リセットボタンを押す。

手順 7 起動後、ブザーがピツとなったら、テストボタンを押す。

- ・ 管理情報の消去機能がはたらき、アクセスインジケータが点滅します。消去が完了すると、緑色に点灯します。

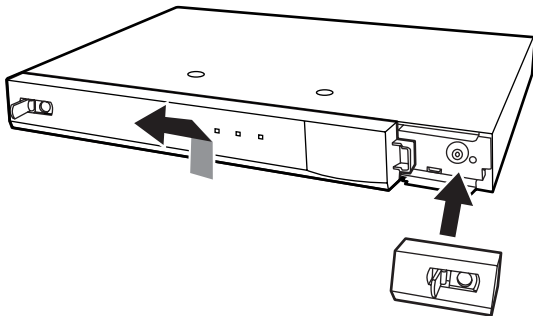
手順 8 MODE ロータリースイッチを希望する運用に対応した番号に設定する。

MODE ロータリースイッチ	運用	
	HDD 運用モード	スリープ機能
0 *	セパレート	なし
1	スパニング	なし
2	ミラーリング	なし
3 *	セパレート	あり
4 *	スパニング	あり
5 *	ミラーリング	あり
6	使用しないでください	
7	使用しないでください	
8	使用しないでください	
9	使用しないでください	

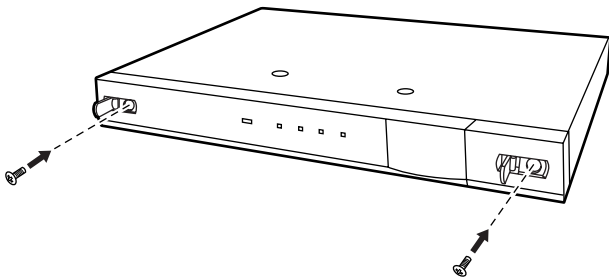
*： 接続しているレコーダーがDX-TL6000シリーズの場合のみ使用することができます。

手順 9 カバーを取り付ける。

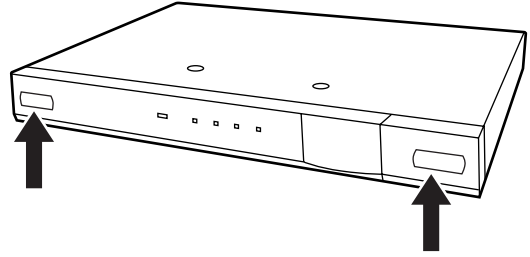
- ・ 左側のカバーを先に取り付けてから、右側のカバーを取り付けます。



手順 10 ネジをしめる (2ヶ所)。



手順 11 本機前面部のカバーの両端にあるネジカバーを閉じる。



手順 12 本機後面の MAIN スイッチを ON にする。

本機の ID 番号を設定する

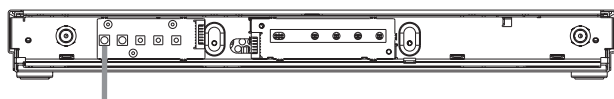
本機の ID 番号を設定する

手順 1 本機後面の MAIN スイッチを OFF にする。

手順 2 12 ページの手順 2～4 に従って、本機のカバーをはずす。

- ・ カバー内部の ID ロータリースイッチを使用して設定します。

<本機前面カバー内部>



IDロータリースイッチ

手順 3 ID ロータリースイッチを希望する番号に設定する。

- ・ ここで設定した ID 番号がレコーダーでデバイスを登録するときのメニュー画面に表示されます。

IDロータリースイッチ	ID番号		
	セパレート運用	スパニング運用	ミラーリング運用
0	ID00A, ID00B	ID00S	ID00M
1	ID01A, ID01B	ID01S	ID01M
2	ID02A, ID02B	ID02S	ID02M
3	ID03A, ID03B	ID03S	ID03M
4	ID04A, ID04B	ID04S	ID04M
5	ID05A, ID05B	ID05S	ID05M
6	ID06A, ID06B	ID06S	ID06M
7	ID07A, ID07B	ID07S	ID07M
8	ID08A, ID08B	ID08S	ID08M
9	ID09A, ID09B	ID09S	ID09M
A	ID10A, ID10B	ID10S	ID10M
B	ID11A, ID11B	ID11S	ID11M
C	ID12A, ID12B	ID12S	ID12M
D	ID13A, ID13B	ID13S	ID13M
E	ID14A, ID14B	ID14S	ID14M
F	ID15A, ID15B	ID15S	ID15M

※ スリープ機能を設定すると、ID番号のうしろに「-SLP」が付いて表示されます。

手順 4 13 ページの手順 9～11 に従って、本機のカバーを取り付ける。

手順 5 本機後面の MAIN スイッチを ON にする。

「故障かな」と思う前に

「故障かな」と思う前に

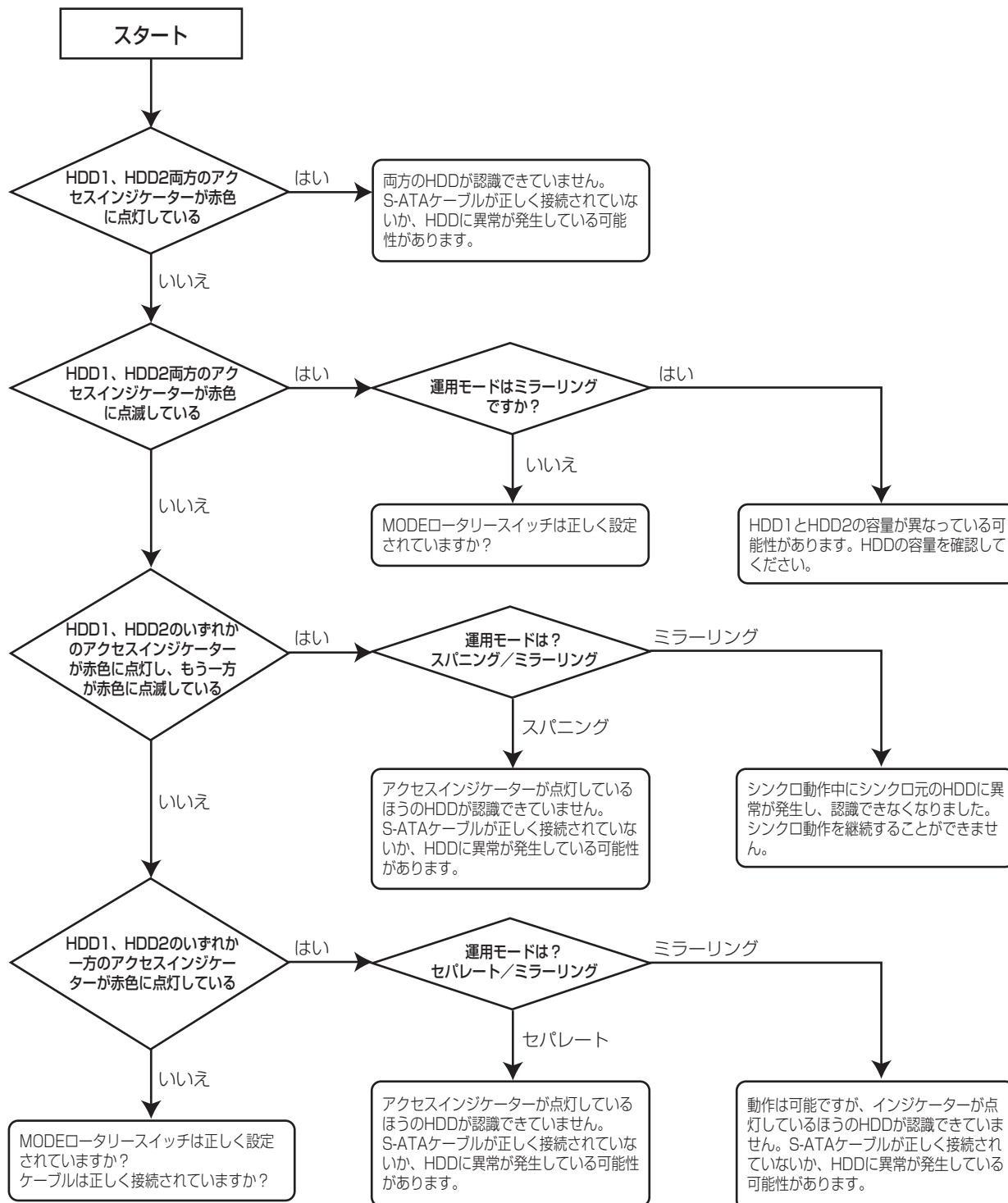
以下の内容をお調べになったあと、それでも不都合がある場合は、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてからお買上げの販売店にご連絡ください。

Q こんな症状が出たら	A ここをお調べください
本機の電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">● 電源プラグがコンセントからはずれていませんか？● レコーダーの DC 12V OUT 端子^(*) または CONT OUT 端子^(*) と本機の CONT IN 端子が接続されていないのに、EXTERNAL CONTROL スイッチが ON になっていませんか？ ^(*) : DX-TL5000 シリーズ、DX-TL4500 シリーズの場合 ^(*) : DX-TL6000 シリーズの場合
本機が正常に動かない。	<ul style="list-style-type: none">● USB ケーブルが正しく接続されていますか？● レコーダーのメニューは正しく設定されていますか？● 制限台数を越えて、レコーダー機器を接続していませんか？● HDD1 または HDD2 インジケータが赤く点滅または点灯していませんか？● MODE ロータリースイッチは正しく設定されていますか？● デバイスを登録するためのレコーダーのメニューに本機が表示されていますか？ 容量は正しく表示されていますか？● HDD の運用変更前に管理情報の消去を実行しましたか？
高温インジケータが点灯した。	<ul style="list-style-type: none">● 電源を切ってください。温度対策を実施し、内部の温度が下がってから再度電源を入れてください。
ファン停止インジケータが点灯した。	<ul style="list-style-type: none">● ファンを交換してください。交換は販売店に依頼してください。

「故障かな」と思う前に (つづき)

HDD インジケータによる診断

本機前面のHDD1 またはHDD2 インジケータが点灯または点滅しているときは、以下のチャートに従って異常の内容を確認してください。



メンテナンス

記載している定期保守点検時期の目安となる使用積算時間をレコーダーで確認することができます。詳細は、レコーダーの取扱説明書をごらんください。ただし、レコーダーの使用時間表示は本機の実動作時間とは若干ずれる場合がありますので、あくまでも目安としてご使用ください。

本機をメイン記録機器として登録しているときは、本機の使用積算時間は表示されません。(接続しているレコーダーの使用積算時間が表示されます。)

仕様

一般

電源	AC100V 50 / 60Hz
定格電流	0.75 A
許容周囲温度	5 ~ 40°C
許容相対湿度	最大 80%
許容高度	2000m以下
外形寸法	42.4 (幅) × 4.9 (高さ) × 36.1 (奥行) cm

質量 約 6.3kg

記憶媒体 ハードディスクドライブ

制御端子

CONT IN	電源連動入力端子	
CONT OUT	電源連動出力端子 (CONT OUT は、CONT IN のスルー出力です。)	
GND (GROUND) (× 2)	グラウンド	
TEMP ALM	異常高温検知出力 (オープンコレクター出力)	動作時: 「L」 レベル電圧出力 最大電流 7mA DC、 非動作時: オープン 最大電圧 +24V DC
FAN ALM	ファン異常検知出力 (オープンコレクター出力)	動作時: 「L」 レベル電圧出力 最大電流 7mA DC、 非動作時: オープン 最大電圧 +24V DC
HDD ALM	HDD 異常検知出力 (オープンコレクター出力)	動作時: 「L」 レベル電圧出力 最大電流 7mA DC、 非動作時: オープン 最大電圧 +24V DC

CONT IN 端子 電源連動入力端子 モジュラージャック
CONT OUT 端子 電源連動出力端子 モジュラージャック

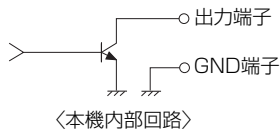
シリアルバス入力端子
シリアルバス出力端子 (X2) (DX-ZD6 のみ接続できます。)

EXTERNAL CONTROL スイッチ 電源外部連動機能 ON 時 電源連動入力端子へ 12V 印加時に HDD に電源供給
電源外部連動機能 OFF 時 常に HDD に電源供給

制御入出力信号と回路について

- TEMP ALM出力端子
- FAN ALM出力端子
- HDD ALM出力端子

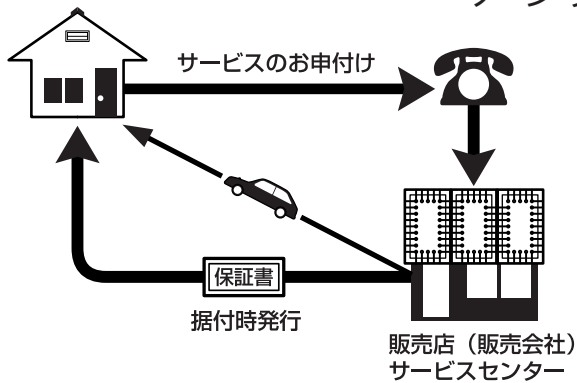
・ 出力回路



仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

付属品	
● 電源コード	1 本
● USB2.0 ケーブル	1 本
● コントロールケーブル	1 本
● 取扱説明書 (本書)	1 冊
● 保証書	1 通

アフターサービス



デジタルレコーダー増設ユニットを末長くご愛用いただくために、定期点検を受けられることをおすすめします。点検については販売店にご相談ください。

1. 保証書—内容のご確認と保存のお願い

必ず販売店名・保証期間をご確認のうえ、よくお読みになって、大切に保存してください。

2. 保証期間—1年

正常なご使用状態で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書記載事項に基づき販売店で修理いたします（消耗部品を除く）。
保証期間内でも原則として有料にさせていただきます場合があります。詳細は、保証書記載事項をごらんください。

3. 修理を依頼される前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、「故障かな」と思う前の項目を点検していただき、なお異常のあるときは保証書をお示しのうえ、販売店にお申し出ください。

4. その他ご不明の点は

販売店にご相談ください。

本機は日本国内専用です。電源電圧の異なる海外では使用できません。また、海外でのアフターサービスもできません。

This hard disk unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

愛情点検

●長年ご使用のデジタルレコーダー増設ユニットの点検をぜひ！

（熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。）



このような
症状は
ありませんか

- 電源コード、プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、映像が出ない。
- その他の異常・故障がある。

ご使用
中 止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

デジタルレコーダー増設ユニットの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

ご購入店などをメモしておく、あとで役に立ちます。

形 名	DX-ZD6	お買上げの 販売店	
お買上げ日		(電話番号)	() -

 三菱電機株式会社

京都製作所 〒617-8550 京都府長岡京市馬場岡所 1 番地

872C431A2

PRINTED IN MALAYSIA